

執刀 繊細な動きが可能に

県立病院では、二〇二二年
度にロボット手術を導入しま
した。これまでに肝臓・膵臓
・直腸・胃・婦人科などの分
野でロボット手術を実施し、
今後ますますの活用が期待さ
れます。

ロボット手術を含めた県立
病院のがん治療について、四
回シリーズで特集します。

■低侵襲手術

がんを根治するためには、
正確な診断に基づく正確な手
術を行うと同時に、患者さん
の術後の回復をスムーズにする
努力も必要です。近年、県
立病院でも力を入れているの
が、腹腔鏡手術による手術の
低侵襲化です。手術の際、切
る部分が大きくなればなるほ
ど、痛みを伴うとともに、普
段の生活に戻るまでに時間が
かかります。低侵襲手術と
は、できるだけ体を傷つけ
ず、体への負担を最小限にし
て術後の回復を早めるよつな
手術のことです。

保険適用の拡大と手術機器

肝臓・膵臓のロボット手術



の発展により、従来は開腹し
ないとなっていた手術が、腹
腔鏡を使うことで低侵襲手術
として安全に実施できるよう
になってきました。ただし、
腹腔鏡手術は使用する手術道

しあわせ広場



①手術ロボットを操作する
医師 ②手術ロボットを操
作する手元の様子（いずれ
も福井市の県立病院で

あり、難易度の高い手術でも
あります。

■ロボット支援下手術

腹腔鏡による低侵襲手術の
進化版として急速に普及して
いるのがロボット支援下手術
です。ロボットは執刀医の手
の動きを再現するもので、機
械が勝手に作動することはあ
りません。高精細な三次元画
像により、執刀医がのぞき込
むモニターに

は立体的な術
野の拡大画像
が鮮明に映し
だされます。

また、ロボ
ット支援下手
術で用いる器
具は人間の手
よりも大きな
可動域を持つ
ため、より複
雑かつ繊細な動きを要する手
術を可能にします。さらに、
術者の手ぶれも補正するた
め、より安定した自然な動き
で手術を行うことが可能で
す。

■高難度手術

肝臓や膵臓の手術は、消化
器外科手術の中で特に難易度
が高く予後も厳しい、いわゆ
る難治がんが多くを占めま
す。当院では、これらの難治
がんに対して外科手術のみな
らず、抗がん剤治療や放射線
治療（陽子線治療）、がんゲ
ノム医療など診療科を超えた
院内の緊密な連携を生かした
チーム医療を提供していま
す。手術に関しては、肝臓や
膵臓においても積極的に低侵
襲手術を実施しているのが当
院の特徴でもあります。

（県立病院）

学ぶ つなぐ 火 備える 水 食 健康 撮る カルキュ